

Tiara

看護情報誌ティアラ 2019年2月

Nursing 最前線 ● 魚沼基幹病院

リーダー養成を目指し

継続的な研修を開催

認定看護師が試みる

地域の感染対策力アップ

SCOPE 注目の話題 ● さいたま市民医療センター

災害時に力を発揮できる医療機関に向けて

「Disaster ABC 病院災害訓練コース」研修

実践的訓練で変わる職員のモチベーション

わが看護協会 ● 兵庫県看護協会

「兵庫県医療職団体協議会」の活動を通し

チーム医療と地域包括ケアを

支えられる看護職を育成



リーダー養成を目指し 継続的な研修を開催 認定看護師が試みる 地域の感染対策力アップ

魚沼基幹病院

地域完結型医療を目指す魚沼地域医療再編により、三次救急と高度医療を担う存在として2015年に誕生した魚沼基幹病院。地域内の医療施設と協力し「地域全体でひとつの病院」を形成することを目標としています。その姿勢は感染対策にも現れており、感染管理認定看護師が保健所と連携を図り、地域全体の感染対策の底上げに取り組んでいます。その様子をお伝えしましょう

人と共に移動する感染症 地域の感染対策を見直す時代に

地域包括ケアシステムの構築が進むなか、医療機関と地域間の人の行き来による感染症の移動は避けられません。地域での感染対策が十分でなければ、感染症は静かに伝播してしまいます。

「これまでも施設等で研修会を行うことはありました。でもなかなか継続的な実施には結びつきませんでした」と話すのは魚沼基幹病院医療安全管理室看護係長の目崎恵感染管理認定看護師。地域での感染対策にかねてから問題意識をもっていたといいます。そしてその思いを、開院と共に入職した同院で、「感染予防対策リーダー養成研修（以下、リーダー養成



1

研修）」の実施に結びつけていきました。

「当院は地域連携のハブとしての役割を担う医療機関なので、地域に向けた取り組みには理解があります。早速保健所に声をかけて、どのような取り組みがよいか検討を開始。結局実施までに1年近くかかってしまいましたが、老人福祉施設等を対象とした研修制度を構築しました」（目崎看護師）

各施設の問題の解決につなげる 感染予防対策リーダー養成研修

2016年度から始まったリーダー養成研修は、1年を通じて行われます。募集は保健所が担当。定員30名の受講生が年間5回コースの研修を受けます。



2



3

1. 感染予防対策リーダー養成研修では演習が大切な要素。汚染物の正しい処理の仕方を体験しながら学ぶ
2. 1回の研修につき2回程度保健所の研修担当者と打ち合わせを行う。研修内容や進行を話し合う
3. 目崎恵感染管理認定看護師



- 4. 手指衛生の研修では、受講生自らが実際の手の汚染状態を確認
- 5. グループワークは年間を通して同じメンバーで、研修終了後は相談し合える仲間になる
- 6. 2016年度感染予防対策リーダー養成研修の修了生の皆さん



初年度は入所型施設が対象で24施設が参加し、翌2017年度は通所型施設を対象としました。

研修では、「手指衛生」「個人防護具」「感染性胃腸炎」「インフルエンザ」と毎回テーマに沿って講義・グループワーク・演習を行います。受講生は、基本を学ぶと共に自施設の現在の問題点を明確にし「行動目標シート」を作成。行動目標を立ててその回の研修が終了となります。

「次の研修までに目標に向けた取り組みを行い、結果と考察をシートに書き込んで提出します。年間を通じ5回ある研修ごとに問題解決に向けた取り組みを行わなければならないため、受講生はとても大変だと思います。当初は継続してもらえるか不安だったのですが、皆とても熱心に取り組んでくれたのでうれしかったですね」(目崎看護師)

行動目標シートは保健所と共有し、受講生が抱える問題や悩みを把握。それをもとに支援方法を検討し、より適切な働きかけに結びつけています。また、研修会の最終回には、受講生が取り組んだ内容について実践報告会を開催し、各施設での取り組みを皆で共有しています。

「講習は2018年度で3年目となりますが、各施設での感染対策は確実に向上しています。インフルエンザやノロウィルスのアウトブレイクの報告は減少。リーダー養成研修が多少なりとも効果を及ぼしているのではないかと思います」(目崎看護師)

保健所との連携が強い力に

介護現場にはディスプレイ手袋やエプロンなどの使用にまだ抵抗感があると目崎看護師。生活の場での快適性が損なわれると感じたり、コストの問

題があるようです。「でも、それが利用者さんと同時に職員も守ることを理解してもらえれば受け入れは進む。受講生が根拠を理解し、自施設の職員に伝えられるよう支援にすることが重要です。行動が結果につながれば、本人の自信にもつながります」と話します。

リーダー養成研修は、現在南魚沼と魚沼の両地域で開催。修了生のフォローアップ研修も行っています。目崎看護師は、今後エリアを拡大し、ゆくゆくは保育園も対象に検討したいと考えています。

「認定看護師1人では難しいと思うことも、保健所と連携が図れたことで、スムーズに研修が開催できました。地域に向けた対策を考えたときには、ためらわずに声を掛けてみることをお勧めします」(目崎看護師)

地域での感染対策の見直しが求められる今、看護師としての取り組みのヒントにしたいものです。



DATA

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

新潟県南魚沼市浦佐4132

<http://www.uonuma-kan-hospital.jp>

開設 ●2015年 病床数 ●454床

職員数 ●718名 うち看護師373名
(2019年1月現在)

一般病棟入院基本料 ●急性期一般入院料1

地域災害拠点病院/地域救命救急センター/
地域周産期母子医療センター/精神科救急医療施設



実践さながらの演習の様子

災害時に力を発揮できる医療機関に向けて

「Disaster ABC 病院災害訓練コース」研修

実践的訓練で変わる職員のモチベーション

さいたま市民医療センターは、2018年10月に災害医療訓練・研修会を実施しました。医療危機管理支援機構の協力を得て2015年から実施しているもので、今回が4回目となります。災害時に傷病者の受け入れ先となる病院に求められる知識や備えを実践的に学ぶプログラム「Disaster ABC 病院災害訓練コース」により行われた訓練・研修会の様子をお伝えしましょう。

災害対策本部・トリアージ・治療 実践に結びつく演習が中心

10月28日の研修会当日、開始時間の9時を前に会場となる院内大会議室には、院外からも含め41名の参加者が集合しました。

開会のあいさつを経て、NPO法人医療危機管理支援機構（以下、支援機構）の5名の講師による講習がスタート。最初に「災害医療概論」についての講義があり、参加者は災害医療の基本や被災地となったときの心構え、そして大規模災害への体系的アプローチ「CSCATTT」について学びました。さらに「トリアージタグの扱い方」「通信・情報管理」と講義は続きました。ここまでの講義時間は約2時間。座学はこれで終了です。

座学に引き続いて行われる演習では、発災後傷病者の受け入れを行い病棟や他医療機関につなぐまでを実践で学んでいきます。参加者は3グループとなり、まずは全員で「災害対策本部の立ち上げと役割」についての説明を受け、グループワークによりその動き方や情報管理の仕方を学習。その後グループに分かれ、①災害対策本部での通信・情報管理、②トリアージ、③治療（外傷診療、院内・広域搬送含む）という3つのステップごとに、講師の指示やアドバイスを受けながらロールプレイングを行いました。

そして、最後に研修のまとめとして、①～③を通じた全体訓練が行われました。全体訓練では状況の提示以外講師によるサポートはなく、すべて参加者

が自ら考えて対応にあたらなければなりません。掛け合う声もいつしか真剣味を帯びてきます。そして16時、1時間15分に及び全体研修は終了。各講師からの講評があり、修了証を受け取って散会となりました。

災害時に求められるのは 全病院職員が対応できること

今回の研修参加者の内訳は、医師8名、看護師18名、その他のメディカルスタッフ9名、事務職員6名でした。これは医療機関に勤務する職員構成とほぼ同じです。

「災害時には院内の全職員で対応しなければなりません。職種によりできることは変わってきますが、それぞれが自分の役割を認識し、状況を判断して自ら動けるようにすることが必要です。このプログラムは、災害医療のスペシャリストではない病院職員が、主体的に傷病者を受け入れるために必要な知識と技術を学ぶためのものなのです」と話すのは、同センター救急総合診療科科長の坪井謙医師。自身も支援機構のメンバーです。同センターに入職した2011年から、院内で「Disaster ABC 病院災害訓練コース」訓練ができないか模索していたといいます。

「当院の施設をみたとき、災害時の傷病者受け入れに最適な構造と設備があることに気づいたので。まさに東日本大震災を経験した直後で、地域が災害に対する力を備えることの重要性を再認識したところでしたから」（坪井医師）



模擬患者の症状に従い
トリアージタグに記入

そして2015年から念願の院内での研修を開始。同センターでは、今回の研修参加者を含め計175名の職員が受講したことになります。「それでもまだ全職員の3割。全員受講に向けて頑張ります」と坪井医師は意欲をみせます。

研修で得た知識や技術は、繰り返しの訓練や実践で確認し、いつでも活用できるようにしておくことが大切です。研修会は現在年に1回の開催となっていますが、部署内では今回のプログラムに沿って①～③の内容を学ぶ勉強会が行われています。

職員の意識にも変化が 看護部主催による災害研修もスタート

研修は職員の意識にも変化を与えています。研修会を支えているメンバーである外来係長の江原由美子看護師と病棟係長の湯川愛看護師も研修によってさまざまなことを感じ、ほかの職員も災害医療に対する関心が高くなったように思っています。

「もともと救急看護や災害看護に関心をもっており、心肺蘇生の講習にも携わってきました。でも最初に研修を体験したとき、普段から救急患者さんに対するトリアージを行ってきた自分でさえ、被災した傷病者の受け入れについての知識のなさを痛感しました。ほかの外来看護師も同じ思いを持ったようです」（江原看護師）

「災害支援ナースに登録していたことから、研修に携わることになりました。災害時受援側になった場合、組織力のある看護師が中心となって初動対応をしなければなりません。みんなにも、自分たちの病院でこういった研修が行われていることを、上手に活用してもらいたいと思います」（湯川看護師）

職員の関心の高まりを感じた看護部では、2018年度から年に2回の災害看護研修を始めました。傷病者の初期のふるい分けに用いられるSTART法トリアージ、その後の重症度判定を行うPAT法（生理学的評価）について学びます。院内の希望者が対象で、初回研修には30～40名が参加しました。

近年多くの災害が発生しているなか、今回の研修会では、災害に強い地域をつくるためにすべきことを考えている医療者の姿をみることができました。

社会医療法人
さいたま市民医療センター
埼玉県さいたま市西区島根299-1
<https://www.scmc.or.jp>



座学によって災害医療の基本と演習で活用する知識を学ぶ



① 災害対策本部：被害状況の連絡を受け、他施設との調整を図る



② トリアージ：模擬患者の訴え・症状による判断が求められる



③ 治療：模擬患者に診断をつけ重症度の判断を行う



（左から）湯川愛看護師、江原由美子看護師、坪井謙医師

NPO法人 医療危機管理支援機構
<https://meccso.jp>

紹介します! / 全国都道府県看護協会をぐるっと巡る

わが看護協会

兵庫県看護協会

vol.1



兵庫県看護協会会長
成田康子さん

2018年6月会長に就任。兵庫県立こども病院や兵庫県立がんセンターでの経験から、2018年度のキーワードとして「つなぐ」を掲げました。協会として、地域包括ケアの時代に求められる看護の実現を目指したいと思っています。

「兵庫県医療職団体協議会」の活動を通し チーム医療と地域包括ケアを支えられる看護職を育成

メディカルスタッフの力を 地域へと広げるために

兵庫県看護協会は、県内のメディカルスタッフ団体との連携を進めています。始まりは1974年に開催された本会と兵庫県放射線技師会との合同研修会。その後、臨床検査技師会、栄養士会、臨床工学技士会、歯科衛生士会が加わり6団体による研修に成長したことから、2013年、もっと県民に貢献できる取り組みを行うため「兵庫県医療職団体協議会（以下、協議会）」を組織しました。今では、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、薬剤師会を加え、メディカルスタッフ10団体が参加しています。

協議会の主な活動としては、これまで続けてきた研修会のほか、看護の日記念イベントや看護フェアへの参加があります。2018年の看護の日記念イベントでは、介護相談や認知症相談など看護師による相談コーナー以外に、栄養士会による食事アドバイス、理学療法士会による筋力測定、臨床工学技士会によるものわすれ相談など、7つのメディカルスタッフ団体が参加して、地域住民への健康アドバイスをを行いました。イベントには毎年300~500名の来



会長の成田康子さん

場者があり、協議会メンバーによる測定や相談を楽しみに、毎年足を運んでくれる人も少なくありません。これは地域の健康意識の向上だけでなく、医療の現場



2018年度看護の日記念イベントでの各団体による測定・相談コーナー

でどのような専門職がどのように働いているのかを周知することにもつながります。それは、人々が医療を要したとき、患者さんと医療職の信頼関係の構築にも役立つのではないかと思います。

各職種と結びつくことが 看護職の価値を高める

協議会が続けてきた合同研修会も、着実に成果を挙げています。2017年度はがんをテーマに、各団体の取り組みから学びました。参加者はどの団体の発表にも参加自由で、1つのテーマを軸に、各職種の視点や取り組みに触れることができます。それがお互いの業務や連携の幅を広げることにつながると考えています。2018年度は西日本豪雨災害等数々の災害が発生したことを踏まえて、災害への取り組み・支援をテーマに開催します。

協議会の活動からは新たな結びつきも育っており、臨床検査技士会からは、来年度の団体内の研修

の講師として本会に看護師派遣の依頼がありました。このような動きが活発化するとよいと思っています。

チーム医療において「つなぐ」役割を求められる看護職ですが、実際の業務における他職種への理解はまだ十分ではありません。まずは、各職種が何を考え、何をしているかを知ることが、チーム医療での役割を果たすための大前提。そうでなければ、患者さんが必要とする支援を的確にコーディネートすることはできません。協議会での活動を通して本協会としてもそれを再認識し、2019年度の本会の教育研修には栄養士や歯科衛生士から学ぶ研修を新設しようと考えています。

看護職には「時間」「空間（場所）」「思い」をつなぎ、「人」をつなぐ力が重要です。それには、自らつながろうとする姿勢、周囲からつながりたいと思われる価値を有する必要があることを忘れてはなりません。本会には、そんな看護職としてのあり方を地域の看護職に伝えていく責任があると思っています。

第46回兵庫県医療職団体協議会研修会

参加費無料

西日本災害を踏まえて
「災害における各団体の取り組み・支援」

第1部 12:00~14:20
医療職団体の「災害」における取り組みについて

第2部 14:30~16:00
基調講演『わが国における災害時医療の進歩と課題 医療職の連携を図るには?』

日時 2019年2月10日(日)12:00~16:00
会場 兵庫県看護協会ハートホール (受付開始11:30)

2018年度
合同研修会のポスター



公益社団法人 兵庫県看護協会

会員数 / 3万1424名
(2018年9月30日現在)
住所 / 兵庫県神戸市中央区
下山手通5-6-24
<https://www.hna.or.jp>



Let's
看護
みかき
vol.3

看護の学びに
役立つ情報を紹介します

「エンド・オブ・ライフケア」について看護実践の視点からまとめた同著の改訂版。実践の基礎となる理論を充実させた「理論編」と、慢性疾患と共に生きる人・子どもの病状経過と、老いと共に生きる高齢者の看取りを軸に、エンド・オブ・ライフケアを必要とする場面でのアプローチをまとめた「実践編」で構成されています。地域づくりにも活用できる実践書。

看護実践にいかす
エンド・オブ・ライフケア
「その人の生きる」をささえる

看護実践にいかす
エンド・オブ・ライフケア 第2版

長江弘子 編
日本看護協会出版会
2500円(税別)

ナースが地域の自慢のおみやげをご紹介します!

自慢の / おみやげ Collection

今回の推薦者
兵庫県看護協会
会長
成田康子さん

vol.3
兵庫県 | Japanese SAKE cake

イチャポン

地元の酒蔵と菓子店がコラボして誕生したパウンドケーキ。ほんのりとした日本酒の香りとしっとりふんわり食感がお気に入りです。福祉事業所が製造を担当した新しい地元の味です。カップ 1個300円、パウンドケーキ 1本1380円(各税抜) 神戸ふれあい工房 078-334-2011 (神戸市役所内)

どうしたらいい?

お助け! 接遇 Q&A

vol.4



看護の中で出会いがちな
接遇にかかわる困りごとに答えます

解答

株式会社 C-plan 代表取締役
小山美智子さん

Q.

患者さんからの声かけにうまく対応
できているか自信がありません。
どうすれば患者さんに満足してもら
えるの?

A.

しっかり聴く姿勢をもつことが大切
です。訴えの内容をしっかり捉え、
患者さんの思いをくみ取れるよう
にしましょう。

患者さんからの声かけは、困っていることややってほ
しいことを知る「チャンス」だと考え、訴えの内容をし
っかり聴きましょう。叶わない可能性の高い訴えでも、
すぐに断らず確認するようにします。自分で対応できな
いときはほかのスタッフに申し送りを行い、専門性が求
められる場合は専門分野の職員や上司と連携して対応し
ます。

なかには要望をうまく伝えられない患者さんもあります。
「特に変わった様子もなく、声かけに返事がないので用事
がないと思っていた」という看護師の声を聞くことはあ

りませんか。そのような場合、ひと言足りなかった可能
性があります。「何かお手伝いできることはありません
か?」と一歩踏み込んでみるなど、遠慮がちな患者さん
に対しては、相手の気質に合わせた受け答えをすること
も必要です。

患者さんから声をかけられたときは、たとえ忙しくて
も「怪訝な」「面倒な」表情をしたり、わからなくてもた
らい回しにするのは厳禁です。ナースコールには「どう
されましたか?」ではなく「すぐうかがいます」と答え、
なるべく早くうかがうよう努めます。

医療研修施設

ニプロ IMEPに 行ってきました!!

新人ナース

ベテランナース

在宅用の
トレーニングルームも
あるんですね。

ここでは主に
薬剤師さんが研修を
するのよ。調剤をするための
クリーンベンチもあるのよ。

こんな感じ
ですかね?

コラ!
遊ばないの!

せっ先輩~!!
エラー音が
止まりません!!

一軒家のようになっていて、
ポータブルトイレや、
隣にはバス、キッチンも
揃っているのよ。
実際の状況に近い形で
研修できるの!

この部屋では、
患者さんの状態を細かく設定して、
実際の急変時にどう動けばよいかを
シミュレーションできるのよ。
現場に近い状況で研修できて、
新人ナースにもってこいね。

施設 DATA

「医療研修施設 ニプロIMEP」

〒525-0055 滋賀県草津市野路町3023番地
3階建て 研修室数17室

各研修室には最新の同時録画装置を設けており、館内での
ライブ配信学習、録画振り返り学習はもとより、WEB回線を用
いることで世界中に配信も可能

医療関係者向け講習会のお知らせは下記よりご確認ください
(URL)
http://med.nipro.co.jp/imep_society



NIPRO